



Hi from Kori

姉妹都市交流提携20周年を記念してカナダ・キャンモア町から英語教育指導員として来町したコーリー・チューインさんの新コラムが今月から登場です。

Encounters of the animal kind...

Getting settled in Higashikawa was a journey speckled with miniature adventures; ranging from paperwork treasure hunts around the town, to encounters of the animal kind.

Ok, lets start with the facts; both Hokkaido and The Canadian Rockies have a relatively similar climate, and therefore similar flora and fauna. In Canmore, its routine for me to carry bear spray on my morning runs, as the threat of an 800 pound grizzly bear surprising me in the woods is not at all unusual. Without the threat of dangerous carnivorous bears, or even cougars, in Higashikawa, I headed out on my daily morning runs without a worry in my head. Oh how I was mistaken!

One morning by the river, I saw something moving in the distance, just a few leaves on the path I thought. As I got closer, I noticed it was A SNAKE!!! What?!! I stopped in my tracks, it stopped mid slither; we made eye contact. I think we were both confused and disoriented as it dashed into the bushes. With my increased adrenalin, I sprinted home, mildly traumatized from my meeting with the 4ft brownish orange reptile.

So there's my ecological blunder #1. Note to self: don't leave the bear spray in Canmore, you might need it for the snakes in Higashikawa!!

All in all, I am happily settled into the town, on guard in the mornings for random animals, and ready for whatever ...



生き物との遭遇

東川に落ち着くのはちょっとした冒険でした。町中を書類探検、そして小動物との出会い。

北海道とロッキー山脈は比較的気候が近いので、そこに住む動植物も似ています。キャンモア町では、朝のジョギングに熊除けスプレーを持っていくのが日課でした。林の中、800ポンドもあるグリズリーベアに出くわす、なんて日常茶飯事。でも東川に来た私は危険な肉食熊やクーガー（ピューマ）の脅威もなく、安心して日課のジョギングに出かけました。ところがどっこい！これが間違いのもと！

ある朝のことです。川のほとりを走っていて、遠くに動くものを見つけました。初めは葉っぱが落ちていっているな、と思いました。ところが、近づくにつれて気がつきました！「ええっ？へびだ！、思わず立ち止まりました。目が合って蛇もくねくねを止めました。お互いに混乱しているうちに蛇はやぶへと走り去りました。

全身にどっとアドレナリンが出て、全力で家に帰りました。4フィートもある茶色がかったオレンジ色の爬（は）虫類との「出会い」に軽くショックを受けながら。

というわけで、これが東川生活初めての生態学的（※）失敗。心に覚え書きしました。キャンモア町に熊スプレーを置いてきてはいけな、と。東川では蛇にスプレーが必要かも！

なにはともあれ、朝のジョギングは小動物に気をつけながら、その他なんでもあれ、心構えしつつ、機嫌良く町に落ち着いたところです。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

上のコーリーさんのエッセイ、生態学的（※）と訳しましたが、原文はecologicalとなっています。エコロジカルという「エコ=環境にやさしい」を思い浮かべますが、実はエコロジーとは、広い意味で生物学の一分野のことです。環境破壊が表面化して、それを解決する学問分野として生態学が注目を受けるようになり、この言葉が一般化して広まりました。英語では「エコな商品」は「green(グリーン) products(プロダクツ)」。「エコに気をつける」ことを「I go(ゴウ) green.」と言います。

先日「大好きなことを仕事にしよう」という本を読みました。「青色発光ダイオード」を発明した中村修二さんの本です。中村さんは小学校高学年のとき、母親に言われてスパルタ式の英語塾に通っていたそうです。その塾は家

わが家では中学1年生の息子が「基礎英語2」を聞いています。この番組の放送は1日3回。朝6時15分からの放送を聞くことが多いですが、だいたいは録音したものを聞いています。語学学習は習慣化が成功の秘けつですが、なんやかや忙しい現代人が英会話スクールの通うのは至難の技です。どれだけ行く気があるかも、体が空いていませぬ。それよりは1日15分間ラジオを聞く習慣をつけることが近道だと思います。

英語教育指導員 宮地晶子の
エイゴのマナビカタ

第62回
8月はぜひラジオを

「基礎英語1、2、3」はちょうど中学校の英語の1、2、3年生に対応しています。ぜひ聞いてください。1回15分間の放送は、まさに短期の集中、長期の蓄積です。まずは書店でテキストを！

将来何になるにせよ、まずは初めの一步を。8月の放送は4月から7月の復習です。4月から聞きそびれた人や、途中で挫折した人にぴったりです。

「基礎英語」を聞くのが宿題。塾でその内容について質問されて、できないと定規でパンパンたたかれたそうです。こわくて英語を覚えたとか。でもおかげで中学校に入っても英語の授業に拒絶反応が出なくて助かったそうです。